

# 道徳学習指導略案

第4学年 1組 合計 29名

1. 主題名 正直はだれのため (A 正直、誠実)
2. 教材名 「新次のしょうぎ」
3. ねらい ◎不正をして勝ったとしても、結局は後悔にさいなまれる新次の気持ちを考えることから、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

## 4. 本時の展開

	学習活動 (○主な発問◎主発問・予想される児童の反応)	●指導上の留意点 ◇評価
導入	<p>1. 正直について、考えを交流する。</p> <p>○「正直」ってどういう意味ですか。 「正直」はいいことでしょうか。 「正直」でいられなかった経験はありますか。 ・素直でいること。嘘をつかないこと。 ・いいことです。 ・つい、嘘をついたことがある</p>	<p>●主題について現時点での捉えを交流させ、めあての設定につなぐ。</p> <p>●時には「正直」でいられないこともある経験を思い出させ、主人公の気持ちを理解しやすくさせる。</p>
展開前段	<p>2. 教材「新次のしょうぎ」を読んで考え、話し合う。</p> <p>○伊三郎おじさんが席を外したとき、新次はどんなことを考えていたでしょう。2通りの気持ちを考えましょう。</p> <p><b>天使の心＝駒を動かさない</b></p> <p>・正々堂々と勝たないと意味がない。 ・ばれたら、怒られるかもしれない。</p> <p><b>悪魔の心＝駒を動かそう</b></p> <p>・見てないから今のうちだ。 ・一個ぐらいだったら、きっと気付かないだろう。</p> <p>○伊三郎おじさんに勝って、にこにこしていた新次はどんなことを思っていたでしょう。</p> <p>・あんなことしなきゃよかった。 ・勝ったのに全然うれしくない。</p> <p>◎新次の傘を持つ手に涙がこぼれたのは、どんな思いが込み上げてきたからでしょう。</p> <p>・ずるをしなければよかったと思ったから。 ・こんなことをして勝っても、恥ずかしい気持ちだから。 ・おじさんに謝りたいと思ったから。</p>	<p>●自分の心から、どんな考えが聞こえてきたのか、「二つの心」に分けて考えさせる。</p> <p>●つい魔が差して、悪魔の気持ちも持ってしまった新次の気持ちを理解させるようにする。</p> <p>●にこにこしていた新次の笑顔は、勝利の笑顔ではなく、不正をごまかすための作り笑いだったことを押さえてから、考えさせる。</p> <p>●新次がずるしたことを後悔し、過ちを改め正直に謝ろうとしている気持ちに共感させながら、ねらいに迫る。</p> <p>◇不正をして勝ったときはうれしくない、むしろ悲しい後ろめたい気持ちになることに気づいているか。〈ノート・発言〉</p>
展開後段	<p>○正直に生きることのよさについて考えましょう。</p> <p>・正直にすると、自分の心に嘘をつかずに生きられる。 ・つい間違っただけの行いをして、素直に謝れば許してもらえる。 ・自分に自信がもてる。 ・誰からも信用される。</p>	<p>●正直に生きることのよさについて、学習を通して考えたことや思い出した経験などをノートに記入させる。</p> <p>●正直に生きることのよさについて、経験なども交えながら意見を交流する。</p> <p>◇正直に明るい心で生活しようとすることの大切さについて考えを深めているか。〈ノート・発言〉</p>
終末	<p>3. 教師の失敗談を聞く。</p> <p>○正直になれなかった失敗談を話す。</p> <p>・先生も子どもの頃にごまかしてしまったことがあって、正直に謝れなかったことがあった。正直に謝ればよかったと、今でも後悔の気持ちが残っている。</p>	<p>●ごまかしてしまったまま正直に謝ることができないと、心がいつまでもすっきりしないので、正直に生きることがよりよく生きることにつながることを考えさせる。</p>

